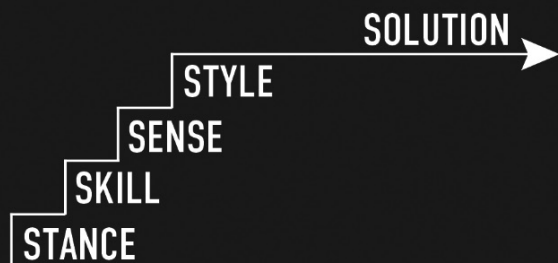


REDESIGN



リスキリングの効果を 最大化する能力開発法

MVPC の 4S により
時代に流されないための
多角思考 を身につける

MVP コンサルティング代表

岡田 和喜

【はじめに】

人工知能（AI）の急速な進歩により、ビジネス環境は大きく変化し、変化のスピードも大変早くなっています。何よりも、これまで継続されてきた、ビジネスの仕組みそのものが、IT技術の進化により、大きく変化します。また、今後その傾向は確実に大きくなります。

既に工場では、IoT（あらゆるモノがインターネットにつながることで、新たな付加価値を生み出す技術）により、工場の自動化が進展しています。また、人手に頼っていた物流作業も自動化になる等、さまざまな業務がIT活用により、無人化されています。これらの業務の多くは、人の勘や経験にあまり依存しない、比較的単純業務の領域でした。

ところが現在では、AIの進化により、これまで自動化が困難と言われてきた、研究開発業務の領域までもが、大きく変化しています。研究開発は、企業の差別化の源泉となる業務で、研究者の長年の経験や勘が、研究開発の成否を分けていました。この領域でさえも自動化が進展しています。

この様に、AIやIoTにより、産業構造や企業の業務内容が激変し、既存の業務そのものが確実に変化します。今後、AIやIoTの進化に対応出来ない企業は、淘汰される可能性が高いと思われます。

ビジネス環境の変化に対応するために、多くの社会人が、今までにない新しい『スキル』を身に付けること（リスクリング）が求められます。日本政府の総合経済対策でも、今後5年間で1兆円をリスクリングに投資する事を検討しています。

AI・IoTを効果的に活用することが出来れば、業務の効率化はもとより、「世の中に役に立つ、新たなビジネスの仕組み」が創造出来る可能性は高いに高まります。企業にとっては、非常に大きなチャンスでもあります。

これは、個人にも言えることで、「新たな変化を大きなチャンスに変えるか」、「変化に対応出来ず脅威にしてしまうか」は、個人の問題意識や、

今後の能力開発に、追う所が多々あります。

大切なことは、人により得意分野や仕事の経験が異なる様に、どの様な『スキル』を身に付ければ良いかは、人により異なります。『スキル』を身に付けるためには、大きな努力が必要で、自分に合った『スキル』を効果的に身に付けることが大切です。

さらに、仕事に必要な能力は、『スキル』だけではありません。小手先で『スキル』だけを磨くのではなく、ビジネスの基本を理解し、体系的に能力を高めることが大変重要になります。

「どの様に自分を磨けば良いのか」、「何を視点に能力開発を行えばよいか」に関して、実際に悩んでおられる方は、大変多いのではないかと思います。

筆者はこれまで、さまざまな企業で、いろいろな分野の仕事に携わってきました。その中には、四面楚歌の中で米国の赤字企業の再建、企業の業務変革や従業員の意識変革など、大変困難な業務も数多くありました。辛酸をなめながらも、多くのスタッフや周りの人達に助けられ、大変有意義な経験をし、さまざまな教訓を得てきました。

会社の役員を退任後、MVP (Mission = Vision × Passion) コンサルティングという会社を立ち上げました。本書では、仕事のベースとなる基本的な能力を、『MVPC (MVP コンサルティング) の4S (スタンス・スキル・センス・スタイル)』としてまとめています。

これまでさまざまな企業で『MVPC の4S』をお伝えし、議論をしてきました。その議論を通して、現在の混沌とした時代において、『MVPC の4S』の考え方は、ますます重要になると、確信出来るようになりました。

これまで教訓をお話しさせて頂いたのは、在籍した企業を始め、大手製薬会社の子会社の部課長研修、大手機能性原料メーカーの研究員を対象とした年間研修、調査会社での講演、顧問をさせて頂いている企業の部長研修や、新人研修等です。

既に数百名の方に『MVPC の4S』をお伝えし、沢山の方より高い評価を頂きました。

自分磨きには、苦難を乗り越える原点、『ビジネス哲学』と『ビジネスの基本的な考え方』が必要です。また、実際に自分磨きを行うためには、『自

分自身の理解』と『能力開発を効果的に進める基本』を理解する事が重要です。

本著では、多くのかたがたより反響を頂いた、『後悔しない自分磨きの基本』として『MVPCの4S』をご紹介します。『MVPCの4S』のユニークな視点は、ビジネスで必要とされる能力を、全く新しい視点から解析出来る事です。これにより、獲得したい能力開発の視点が広がり、身に付けるべき能力が、より明確になるのです。

これまで、『MVPCの4S』の研修は、研修生に質問を投げかけ一緒に考えるという「双方向」で進めて来ました。書物では双方向のやり取りは不可能ですが、先ず本の中で筆者より質問をさせて頂き、読者の皆様に「考えて頂き主題に入る」という手法も活用します。どの様な視点から、自分に合った能力を、どの様に身に付けていくのか。読者自身も考えて、実行して頂く『自分磨き（企業視点では人材力の強化）の実践的な内容』となっています。

今後の激変するビジネス環境を、一人でも多くの方が前向きに乗り切って頂きたい、という思いから本著をまとめました。ビジネス能力UPの処方箋として、必ずお役に立てると信じております。

目次

CONTENTS

第1章

社会人としての自分磨きの基本となる視点..... 13

1. 能力開発のベースとなる『MVPCの4S』とは..... 13
 - 1) 『スタンス (Stance)』..... 13
 - 2) 『スキル (Skill)』..... 14
 - 3) 『センス (Sense)』..... 15
 - 4) 『スタイル (Style)』..... 15
 - 5) 『MVPCの4S』3つの重要な視点 16

第2章

ビジネスの基本的な考え方『スタンス』..... 19

1. ビジネスの真の目的とは 19
2. ビジネスの真の目的を達成するために何が必要か 22
 - 1) お客様のお役に立つという視点 22
 - 2) 「お客様の要望や不満」から真の『顧客価値』の創造に必要なこと... 23
 - 3) 社会のお役に立つという視点..... 24
 - 4) 確実に起こる未来の危機を回避するビジネスモデルの事例... 24

3. 企業の真の成果は何か	25
1) お客様満足を達成し、顧客に選ばれ続ける企業になること...	26
2) ステークホルダーの期待や、社会の課題に応えること	26
4. ビジネス『スタンス』を考える上での教訓.....	27
1) 『スタンス』を考える時の教訓.....	27
2) これまでの教訓で得られた『スタンス』の能力獲得のベース...	28
① 『スタンス』 = 『愛』と『忍耐』	28
② 『スタンス』 = 『志』と『情熱』	30
● 真剣さが人を動かす	30
● マニュアルなんて何も無い	30
③ 『スタンス』 = 『謙虚さ』と『感謝』	31
● 先頭に立って人を動かせる限界.....	31
● 仕事の基本は心遣いから	32
● 人として大切にしたい素直さ	32
5. 『スタンス』の浸透が従業員の『意識変革』繋がった事例	33
1) ある大手企業の研究部門の変革事例	33
① スタートは『何のために研究開発しているのか』(研究開発の土台) ..	33
② 『研究開発の Mission』を具体的な業務に翻訳することの大切さ ..	34
③ 具体的な研究開発の仕事の内容は担当者が自ら考えることが重要 ..	35

第 3 章

環境変化に対応出来る『スキル』をどう高めるか... 39

1. 変化に対応出来る『スキル』を身に付けるためのポイント	39
1) 『スキル』の能力獲得のベースとなる考え方.....	39

①スキルを身に付けるポイントは『向上心』と『努力』.....	39
2. 『スキル』獲得のための『基本の3力』.....	41
1) 『集中力』：自分の時間を一つの事に集中出来る力	41
◎集中力を身に付けるためには何をすればよいか	41
① 今やるべき事の準備をする.....	41
●やるべき事のスタートが遅くなる原因は準備不足.....	41
●仕事の準備の基本、『整理・整頓の7S』.....	41
●『7S』を楽しく実行する参考事例	42
② やるべき事のルーチンを決めておく	43
③ 今やるべき事のために生活習慣を変える	43
●やるべき事のために、やらない事を決め、やるべき事に集中する ..	43
2) 『初志貫徹力』：やると決めた志を最後まで貫きとおす力.....	44
① 自分の将来像をしっかりと描く	44
② 周りの人達に夢を語ることで自分にプレッシャーをかける...44	
3) 『学習力』：知識や知恵を自ら習得し活かす力.....	46
① 学習力を高めるための基礎となる法則：エビングハウスの忘却曲線 ..	47
② 『学習力』を高めるためには何をすればよいか.....	47
●定期的に復習をすることにより記憶を定着させる.....	47
●『インプット能力』と『アウトプット能力』を高める.....	48
(1) 学んだ新しい知識を自分のものにする(知識の体得)..	48
(2) アウトプットの時はリラックスする	48
(3) 脳の記憶の曖昧さを利用する.....	49
●重要なポイントを整理しつつ5感を活用する	49

第4章

仕事の能力開発のベース『センス』..... 53

1. 『センス』の意味と基本の理解..... 53
 - 1) 一般的にセンス良い人とはどのような人..... 53
 - ① ファッションのセンスの良い人..... 53
 - ② センスが良い人の特徴..... 53
2. ビジネスに必要な『センス』とは..... 54
 - 1) MVPC が定義する：ビジネスにおける『感性』とは..... 54
 - 2) MVPC が定義する：ビジネスにおける『文化度』とは..... 54
 - 3) 『文化度』がセンスを磨く上でなぜ重要なのか..... 55
 - ① 仕事のセンスを磨く上で、歴史書は大変有効..... 55
 - ② 人としてのセンスを磨く上で文化や芸術に触れることは大切... 55
 - ③ 商品の歴史を知ることは、未来の価値ある商品を考える上で重要.. 55
 - ④ 海外ビジネスのセンスを高めるには、進出国の文化を学ぶことが重要.. 56
 - 語学もその国の文化（片言でも話しが出来ることは重要).. 56
 - 筆者が上海に事業を設立し、大変有効であった事例..... 56
 - 4) ビジネスセンスになぜ「自分自身の理解」が必要か..... 58
 - ① 『センス』はその人に合ったモノが求められること..... 58
 - ② 『センス』を高めるためには自分を理解し感性を磨くことが大切.. 59
 - 5) ビジネス『センス』とは何か..... 60
3. なぜビジネス『センス』が重要なのか..... 60
 - 1) ビジネス『センス』が重要な理由..... 60
 - ① 『センス』は人間関係を良くし職場のマナーを高める上でも重要... 60
 - ② 重要な情報を見逃さないためにも『センス』が必要..... 61
 - ③ 『センス』は物事の本質をとらえる重要な能力..... 61
 - ④ 『センス』は顧客の変化・市場の変化をとらえる重要な能力.. 61

⑤ 技術の目利きにも『センス』が重要	61
4. ビジネス『センス』どの様に磨くか	62
1) ビジネス『センス』を磨く基本	62
① 好奇心を持って新しいものに絶えず触れ、色々と感じる	62
② 素晴らしい芸術品など本物に触れる機会を多く持つ	62
③ その道で一流の人達の考え方や哲学を学ぶ.....	63
④ 常に考えて自分なりの仮説を立て仮説検証を重ねる	63
⑤ フットワーク>ネットワーク>ヘッドワークで『センス』を磨く ..	63

第5章

独自の『スタイル』の重要性と基本

1. 『スタイル』の意味と基本の理解	68
1) 我流『スタイル』とお役立ち流『スタイル』の違い.....	68
2) MVPC の定義するお役立ち流『スタイル』とは	70
2. なぜ、お役立ち流『スタイル』が重要なのか.....	70
1) 不確実性の時代は異なる『スタイル』を有する人材が不可欠..	70
① 高度成長時代の「金太郎飴人材」.....	70
② なぜ不確実性の時代は異なる『スタイル』を有する人材が必要なのか ...	70
③ これからの強い企業と必要な人材	71
●事例1. 多様な人材との企業再建の教訓.....	71
●事例2. 『スタイル』の重要性を最も痛感した事例	73
3. 独自のお役立ち流『スタイル』をどの様に確立するか	75
1) 『スタイル』構築に『知恵』が必要な理由	76